



FUKUOKA NEWS

「チーム福岡」福岡県選手団サポートニュース

10月3日 Vol.15

“TEAM FUKUOKA” で勝利へつなく

データ分析が勝利へつなく



県スポーツ振興センターから2人のアナリストが卓球チームに帯同しサポートしている。次戦相手の情報を、会場内で数値化し、ミーティング(作戦会議)にフィードバック行う。分析の観点など、詳しい情報はまだ控えておけるが、本県選手の不安要因をとり除くため、また、次戦における戦術などのイメージをもたせるためのサポートを行っている。

そのために、この2名は、本県選手の活躍を見ることなく、次戦の対戦相手を撮影し、分析を行うというスピード感が全種別入賞という好成績の一因となっている。

- ★卓球成年男子: 準々決勝で和歌山県に敗退(5位入賞)
- ★卓球成年女子: 1次リーグ2位(5位入賞)
- ★卓球少年女子: 準々決勝で愛知県に敗退(5位入賞)
- ★卓球少年男子: 1次リーグ1位(準決勝進出)



【宿舎でのフィードバックの様子】

【試合後の分析の様子】

専門スタッフが勝利へつなく



レスリング競技は、2日、5人の選手が出場したが、ベスト4に残ったのは、成年男子グレコローマン97kg級の天野雅之選手(中央大学<職>)のみ。矢守正宣監督(荏田工業高校<教>)は、「少年から成年へと一貫した強化を徹底しなければならない」と振り返ったが、「天野選手には優勝できる力がある」と見ている。

それは、グレコローマン日本代表の強化スタッフを務める藤山慎平コーチ(九州共立大学<職>)が帯同しているため。グレコローマンスタイルを知り尽くした藤山コーチの戦略的視点に立った指導が、天野選手を第69回長崎国体依頼の成年種別7

【藤山コーチ、天野選手、矢守監督】度目の決勝戦へ導くはずだ。

TEAM FUKUOKAの活躍が勝利へつなく

ボウリング競技少年女子予選に出場した原野萌花選手(福岡第一高校)と坂井百望選手(久留米商業高校)は、「福岡県の剣道競技や自転車競技などの活躍を聞いて、力が湧いてきた。今大会のレーンの癖に早く慣れ、他競技の人たちに負けぬよう、必ず予選を突破する。」とコメント。明日の戦いにも目が離せない。



【原野選手(左)と坂井選手】

たゆまぬ努力が勝利へつなく



【スタート前の山辺選手】

台風の影響で日程が大幅に変更されたセーリング競技。このため、1日に2~3レースが実施され、コンディショニング面・体力面も含め、タフなレースとなった。

県タレント発掘事業修了生である山辺美希選手((株)サガミ)は、過密な日程となったことをポジティブに捉え、「普段から厳しい練習に取り組んでいるので、私にとっては好都合である。」と明るく笑顔でコメントし、国体ウインドサーフィン級種目で見事5位に入賞した。

